

平成30年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立工業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
<p>1 生徒の主体的・協働的学習を推進し、アクティブラーニングの視点から、思考力や表現力、コミュニケーション能力の育成に努めるとともに、学習の成果を的確に評価することに努める。(学びのスタンダード、SPH事業の成果の継承推進)</p>	<p>① 県工学びのスタンダードを活用し、かつSPH事業の成果の拡充・継承を目標とするにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。</p>	<p>教務課 各教科</p>	<p>「県工 Thinking time」などを通して、根拠を提示し論理的に主張できるようになったと回答する生徒の割合で判断する。 【改定】 A 60%以上 B 55%～60%未満 C 50%～55%未満 D 50%未満</p>	<p>(教務課・各教科)最終評価(B) 学校評価アンケートでは、「思う」と「やや思う」と回答した生徒の合計は56%でB評価である。内訳を見ると「思う」と明確に答えた生徒は10%であった。一方職員は「生徒が論理的に発言するように指導している。」の回答が92%であった。教員と生徒の差から、教員側が各授業で目標を明確に生徒に意識させ、主体的な活動を支援することが必要と考えられる。また、よりよい授業を目指して、学校研究推進室と教務課が主体となった取組を推進することで、学校全体として達成度を高めたい。</p>
	<p>② 生徒の主体的な学習を確保し、学習習慣を身につけさせる。</p>	<p>教務課 各教科</p>	<p>予習・復習及び課題や資格取得に向けた学習等に取り組むことができたかどうかを、生徒対象の学校評価アンケートA+B評価の割合で判断する。 【改定】 A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満</p>	<p>(教務課・各教科)最終評価(B) 学校評価アンケートでは、予習・復習と資格取得に向けた学習等について「できた」と「ややできた」と回答した生徒の合計はともに、76%でB評価である。80%以上がA評価であるので、わずかではあるがA評価に届かなかつたことがわかる。各教科・学科において検定や資格取得に向けての取組は積極的に行われているので、日々の授業や定期考査などに対する課題等の取組を充実させていくよう、全教職員が足並みをそろえ、学習習慣をさらに定着するように努力する。</p>
	<p>③ 教師個人及び各教科にて積極的に主体的・対話的な学びを取り入れた授業改善に取り組み、新しい授業づくりに挑戦する。</p>	<p>教務課 全教員</p>	<p>生徒が主体的に活動することを意識して授業を行っているかどうかを、教師対象の自己評価アンケートA+B評価の割合で判断する。 【改定】 A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満</p>	<p>(教務課・全教員)最終評価(A) 学校評価アンケートでは、「している」と「ややしている」と回答した教員の合計は94%でA評価である。各先生方の授業に対する取組(授業研究)や指導方法の改善が積極的に行われている。特に今年度行った校内研究授業日においては、教員が積極的に取り組んだ。来年度は今年度の反省点を検討し、より充実した内容にするため学校研究推進室と連携し、十分な準備・計画を行うよう努める。</p>
	<p>④ 授業の情報化および学力の定着が実感できる授業を目指し、ICT機器の活用を促進する。</p>	<p>学習情報課</p>	<p>ICT機器の活用等により授業が工夫されていると回答する生徒の割合で判断する。 【継続】 A 70%以上 B 60%～70%未満 C 50%～60%未満 D 50%未満</p>	<p>(学習情報課)最終評価(B) 生徒の授業評価アンケートでは、「工夫されている」と「やや工夫されている」と回答した生徒の合計は67.5%でB評価である。今後は、プロジェクターやスクリーン、周辺機器等の整備を更に推進するとともに、ICT機器を用いた授業に参考となる資料や研修機会等の提供を継続する。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「県工 Thinking time」の取組は良い実践だと思えます。先生方の準備は大変と思えますが、今後も継続して実施してほしい。</li> <li>・生徒は、「根拠を提示し論理的に主張できるようになったか」に対してYesと回答しにくいのではないかと。しかし、この問い方で56%の生徒が肯定的回答ということは十分評価できると思う。</li> <li>・生徒たちには、工業高校生に求められる知識・技術はもちろん、主体的・協働的に行動できる人間力を身に付けさせてほしい。</li> <li>・生徒は、突然に設定したハードルを超えるような力を発揮する潜在能力があるので、先生方には、その可能性を引き出すような指導の実践を願いたい。</li> <li>・生徒に、コミュニケーション能力を育成してほしい。メールやSNSなどを利用すれば会話が無くても簡単に伝達できる現代だからこそ、コミュニケーション力が大切である。</li> </ul>			
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の主体的・協働的学習を推進し、アクティブラーニングの視点から、思考力や表現力、コミュニケーション能力の育成に努めるとともに、学習の成果を的確に評価することに努める。</li> <li>・アクティブラーニングの手法を積極的に活用し、生徒の主体的な学習活動をファシリテートすることで、生徒の授業への参加意識を高める。</li> <li>・学力向上を図るとともに、社会人・職業人として備えるべき人間性を磨き、人間力を高める。</li> </ul>			

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2 将来の職業人としての意識の高い生徒の育成のため、規範意識やマナーの向上を目指す。(人間力スタンダード、校訓の活用)	① 校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的生活習慣を身につけた生徒を育成する。	生徒指導課 各学年	挨拶の励行に積極的に取り組もうと努力している生徒の割合で判断する。 [継続] A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満  前年比の減少の割合で判断する。 [改定] A 前年比15%以上の減少 B 前年比10%～15%未満の減少 C 前年比0%～10%未満の減少 D 前年比増	(生徒指導課・各学年)最終評価(B) 挨拶の励行に取り組んでいる48%、やや取り組んでいる42%で90%の生徒が前向きに取り組んでいると回答した。しかし、挨拶が素晴らしいと印象を受けるまでには及んでいない。特に運動部が挨拶の励行を徹底し、果一番を目指し、学校を引っ張っていく必要がある。 学年集会、学年だより等を通じて、挨拶を啓発してきた。挨拶に取り組もうとしている生徒の割合は90%であるが、より学年を中心に教職員全体で率先して挨拶の励行をすすめていきたい。
	周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県工モノづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。	総務課	生徒が活動に積極的に取り組んだかどうかで判断する。 [継続] A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	(総務課)最終評価(B) 生徒対象の学校評価アンケートにおいて、周辺美化活動参加者のうち85%の生徒が「積極的に取り組んだ、やや積極的に取り組んだ」と回答し、地域貢献に肯定的な回答であった。 県工モノづくりワールド後のアンケートでは92.7%の生徒が「積極的に取り組んだ」と回答している。今後とも、地域貢献意欲を向上させるよう各ボランティア活動の趣旨を生徒へ周知しながら、積極的に取り組ませていきたい。
	② 交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。	生徒指導課 学年団	交通ルール等の違反指導件数減少の割合を目標とする。 [継続] A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	(生徒指導課・学年団)最終評価(D) 1月末現在で違反件数は65件、昨年度は58件と増加している。 根気強く、色々な場面で規範意識を指導するとともに登下校指導を行い、学校全体が「ルールを遵守すること」に重きを置いていることを感じさせる必要がある。 学年集会でも、また、担任からも再三にわたり、安全のため交通ルールの遵守について話をしてもらい、注意喚起を図ったがなかなか違反件数減少につながらなかったが、地道に指導を継続していきたい。
	③ いじめの早期発見・早期対応に向け、気になる情報についてはすみやかに共有し、組織的な対応を行う。	生徒指導課 全職員	教員相互の頻繁な情報交換により、問題を未然に防ぐことができている。教師対象の学校評価アンケートA評価の割合で判断する。 [新規] A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	(生徒指導課・全職員)最終評価(D) 教員相互間の頻繁な情報交換により、問題を未然に防ぐことができていると回答した教員が46%、ややできている50%で96%の回答であった。 A+B評価の割合で判断すればAであるが、評価はDである。 次年度は教員相互に問題の未然防止に対する共通理解をさらに高め、きめ細やかな指導、組織的対応を行い、未然防止に努める必要がある。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会が一番近い学校」という共通理解のもと、挨拶を励行している生徒が90%という結果はすばらしいと思います。</li> <li>・1社目の受験で内定した生徒が95.5%、就職率100%達成。すばらしい結果に驚いている。やはり、明確な目的を持った生徒であることを感じさせる結果です。将来の工業技術者、職業人を育成する学校として、また歴史と伝統のある工業高校として、継続した指導をお願いします。</li> <li>・先生方が時間をかけて生徒の様子を観察して、就学環境にフィードバックしていただきたいと思います。</li> <li>・交通ルール以外にも、社会には多くのルールがあります。たとえ上級学校に進学しても、そこにはルールがあります。そのことを生徒の皆さんにしっかりと伝えていただきたいと思います。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の職業人はもちろん、社会人としても意識の高い生徒の育成のため、規範意識やマナーの向上を目指す。</li> <li>・将来の職業人としての職業観・就業観を育成し、規則正しい生活習慣の定着や規範意識の高揚、コミュニケーション能力を高める。</li> <li>・学校運営として、学科、学年、部活動との連携を強化し、「タテ、ヨコ、ナナメ」の全校一丸となった指導体制を確実に機能させる。</li> </ul>			

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
3 専門的技能の習得をはじめ、資格取得や検定、各種コンテストに意欲的に取り組み確かな進路実現を図る。(技能スタンダードの推進)	① 就職希望者が100%内定するとともに、第1社目受験での進路実現を図る。	進路指導課 3年学年団	就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。[継続] A 90%以上 B 85%～90%未満 C 80%～85%未満 D 80%未満	(進路指導課・3年学年団)最終評価(A) 1社目の受験で内定した割合 95.5%(昨年度は94.7%) 学校推薦による就職試験受験者数178名 1社目受験での就職内定者数 170名
	② 生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	工業7学科 教務課	認定者数(特別表彰+ゴールド+シルバー)で判断する。[継続] A 60名以上 B 50名～60名未満 C 40名～50名未満 D 40名未満	(教務課・工業7学科)最終評価(A) 一人が二つの認定を受けている場合は、上位表彰でカウントし、特別表彰4名、ゴールド39名(特別表彰を含む)、シルバー34名 合計73名であった。
	③ 全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。	工業7学科	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会]の場合、大会出場の難易度で判断する。[継続] A 全国大会でベスト16以上の成績であった B 全国大会に出場した C ブロック大会で入賞した D 県大会で入賞した  [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会]の場合、出場した全国大会の成績で判断する。[継続] A 全国大会でベスト8以上の成績であった B 全国大会でベスト16以上の成績であった C 全国大会で初戦突破した D 全国大会に出場した  各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。[継続] A 全国レベルのコンテスト等で入賞 B 全国レベルのコンテスト等で入選 C 県レベルのコンテスト等で入賞 D 県レベルのコンテスト等で入選	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会](工業7科)最終評価(A) 第18回高校生ものづくりコンテスト全国大会(東海大会)化学分析部門 1位 ロボットアメリカンフットボール石川県大会優勝(全国大会出場) 第18回高校生ものづくりコンテスト石川県大会旋盤作業部門 2位 第18回高校生ものづくりコンテスト電子回路組立部門県大会2位および3位(北信越大会出場) 高校生ロボット競技大会石川県大会3位(全国大会出場) 高校生ものづくりコンテスト電気工事事業部門県大会4位(北信越大会出場)  [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会](工業7科)最終評価(A) 全国ソーラーラジコンカーコンテストベスト8  各種コンテスト、コンクール(工業7科)最終評価(A) 平成31年度国土緑化運動、育樹運動ポスター原画コンクール(全国審査)特選、農林水産大臣賞 平成30年度デザインパテントコンテスト(全国審査)優秀賞(支援対象) 愛鳥週間用ポスター原画コンクール(全国審査)環境大臣賞 石川県プログラミングコンテスト優勝 石川県デザイン展 銀賞1名 銅賞1名 いしかわ農林漁業まつりポスター 準特選1名 '18～'19いしかわファッションウィーク小学生・中学生・高校生によるデザイン画コンクール(高校生の部)入選(県知事賞・金沢市長賞・石川県教育委員会賞) 平成30年度レタリング技能検定3級 優秀賞
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジュニアマイスター表彰に対して、PTAから顕彰の程度に応じた図書カードを授与される制度は良い試みである。</li> <li>・上位表彰者が増加したことは良いことである。今後とも、将来のため、自分に力をつける資格取得に積極的に継続的に取り組んでいただきたいと思います。</li> <li>・各種競技や大会、コンテストやコンクールでの成績はすばらしい。もっともっと外に向けて積極的に発信し成果をアピールしたら良いと思います。</li> <li>・資格取得は自分に力をつけることである。生徒の将来に必ず役立つと思います。今後とも資格取得指導に積極的に取り組んでいただきたいと願います。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の変化や産業の動向に対応し、将来の工業技術者としての技術・技能や実践力はもちろん、未知なる課題への対応力を身につける指導を行う。</li> <li>・本校の特色、工業高校の魅力を地域に発信し、地域や企業との連携、上級学校との連携を積極的に行い、ものづくり教育の活性化、進路指導の充実並びに安定した入学者の確保に努める。</li> <li>・専門的技能の習得をはじめ、資格取得や検定、各種コンテストに意欲的に取り組み確かな進路実現を図る。</li> </ul>			

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析（結果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 部活動や学校行事等、課外活動への積極的な参加を促し、たくましい体力と精神力、豊かな心を育む。	① 活発な部活動を通して、加入率と成果の更なる向上に努める。	生徒会課	各学年の部活動の加入率で判断する。 [継続] A 95%以上 B 90%～95%未満 C 85%～90%未満 D 85%未満	(生徒会課) 最終評価 (A) 全体で95.5%の生徒が部・同好会に所属している (昨年同期97.6%) 2年生の加入率が全体的に減少しているため、途中退部者への他の部・同好会への所属を働きかける。
			県総体の成績等で判断する。(個人・団体あわせて) [継続] A 全国大会5部以上出場または総体順位男子2位以内 B 全国大会3部以上出場または総体順位男子4位以内 C 全国大会1部以上出場または総体順位男子6位以内 D 総体順位男子6位以下	(生徒会課) 最終評価 (B) 全国高校総体には男子バレー部、ボクシング部、テニス部が出場した。 県高校学校対抗順位は、暫定ではあるが男子4位 (昨年7位) 男女総合8位 (昨年12位) と前年と比較し向上している。 今後も各種大会上位進出を目指していけるよう働きかけを継続する。
	② 学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切にし、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。	生徒会課	保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答する割合で判断する。 [継続] A 90%以上 B 75%～90%未満 C 60%～75%未満 D 60%未満	(生徒会課) 最終評価 (A) 保護者の学校評価アンケートで、本校の学校行事が充実していると「思う」と「やや思う」と回答した合計が97%で、学校行事に対してはおおむね満足していると評価をうけた。 今後も生徒が積極的に、意欲的に活動できる学校行事となるように支援を継続したい。
	③ 歯科保健指導を通し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。	保健課	歯科受診済の生徒の割合で判断する。 [継続] A 30%以上 B 25%～30%未満 C 20%～25%未満 D 20%未満	(保健課) 最終評価 (A) 受診率30.4% (昨年度31.6%) で、昨年度より低下したが、30%以上は達成することができた。 来年度は、保健室中心に個別指導、ホーム担任、部活動顧問と連携を図り、歯科保健指導の強化を図り、さらなる受診率の向上を目指す。
5 教職員が相互に業務を点検し、組織的で効率的な業務のあり方を探る。	① 校務分掌ごとに業務の重複を点検し整理に努めることで、多忙化を改善する。	各科・学年・各課	各分掌内の定期的な会議において、主管する行事や業務の見直しについて議論する。 [新規] A 協議の成果として、業務の改善を行った。 B 協議したが業務の改善には到らなかった。	(各科・学年・各課) 最終評価 (A) 以下に挙げるようなコメントから、学校全体として業務改善が行われていると判断し、A評価とした。 次年度は各工業科、学年、各課の評価の割合を算出し最終評価を判定することを考えたい。 ・こまめな連絡を徹底し、会議の回数の削減や時間の短縮を行った。 ・各取組の見直しを行い、職員の負担軽減を図った。 ・業務カレンダーを作成し、業務の見直しと役割分担を明確にすることができた。また、行事の見直しにも取組み次年度の行事計画にも反映させた。 ・会議の時期・回数等も適切だと思われる。また業務の分担も行われ整理されている。次年度も引き続き、組織的で効率的な業務に努めていきたい。 ・担任からの要望を、関係部署に伝え、調整を図り、担任の負担を軽減することができた。 ・成果として、分掌内で協議して昨年度までの主幹するや業務を見直しと効率化を図った。課題として、更なる効率化と見直しのために、年間を俯瞰した業務計画の精度を上げることである。改善策として、今年度を踏まえて、次年度に向けて方向性や計画などをしっかり立てておくことが必要である。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の成績の良さに感じしております。お忙しい中、顧問の先生方のご指導に頭が下がります。これからも「働き方改革」を意識しながら、効果の高い指導をお願いいたします。</li> <li>働き方改革は進んでいるようで安心しましたが、くれぐれも仕事の持ち帰りは無いようにお願いしたいと思います。</li> <li>残業45時間、年休5日取得義務化などが制度化されたとき、仕事の優先順位を臨機応変に判断することも必要であると思います。例えば、今、何が必要で、これは後回しで良いというような考え方が必要なのではないかと思います。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動や学校行事等の課外活動をとおして、粘り強くたくましい体力と精神力及び多様な人々と協働することのできる社会性を培う。</li> <li>体力、精神力、チームとして活動する力を高め、何事にも積極的に挑もうとするチャレンジ精神を育成する。</li> <li>教職員が協働して学校教育の全体について改善・充実を図ることをとおして、心身ともに健康な職場環境の構築を目指す。</li> <li>教職員が相互に業務を点検・改善し、教育の質を落とすことのない、組織的で効率的な業務の在り方を探る。</li> </ul>			